



企業編



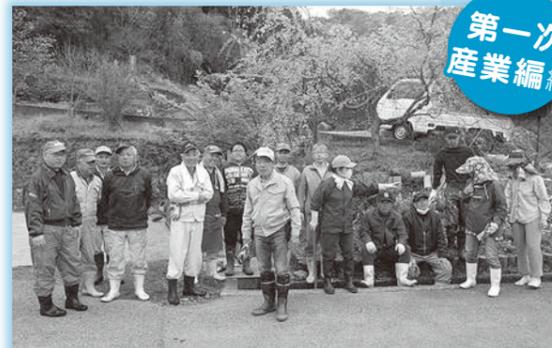
### くにさきエコシステム株式会社

国東町浜崎3230番地2  
設立 ▶ 昭和52年7月 従業員 ▶ 26名

創業者の西田清士さんが行っていた旧国東郡のし尿処理と浄化槽清掃、ゴミ

ミ収集の業務のうち、国見町と国東町、姫島村のし尿処理と浄化槽清掃、郡内全域のごみ収集を引き継ぎ、有限会社国東衛生社は昭和52年に設立されました。国東衛生社は、人が生活する上でなくてはならない存在として、地域社会の中に根付いてきました。平成13年には、大分県で初めて廃食用油をバイオディーゼル燃料に精製し、廃棄物回収車などの軽油代替燃料として使用するようになりました。しかし、業務に対する良くないイメージを変えたい、環境に関わる仕事に携わっているという誇り、そして地域の人々と密接に繋がっていきたいという想いを持っていました。そこで、平成19年に生態系(エ

第一次産業編



### 下櫛来地域環境保全組合

国見町櫛来  
平成26年5月から地域の農村環境の保全に取り組む

下櫛来地域は、国見町の中でも高齢化率が高く、離農する人が増え、数人の担い手農家だけで地域内の農地を管理する状況で、農村環境を保全することは難しくなっていました。そのような中、地域が一体となって農村環境の保全に取り組みたいと考えて環境保全組合を平成26年5月に設立しました。組合の設立に参加したのは、農業者40名と、下櫛来区(世帯数約90戸)、婦人会

法等を話し合う中で、平成26年度に農地・水保全管理支払制度から移行した多面的機能支払制度の認定を受けることになりました。認定後に取り組み始めた保全管理の中でも、排水路の重機による泥上げや遊休農地発生防止の活動と、景観形成の一環として婦人会と連携しての美化活動、子ども会と連携した生き物調査を通じて地域の環境保全への啓発活動に力を入れました。



▲排水路の重機による泥上げ



▲バイオディーゼル燃料精製の様子

「くにさきエコシステム株式会社」に社名を変更しました。また、少しでも地域社会に貢献したいとの考えから、地域と連携し行う「ひまわりプロジェクト」を立ち上げました。このプロジェクトは、耕作放棄地にひまわりを植えて、美しい景観を保ち、その後ひまわりの種を収穫し、ひまわりオイルを搾油・販売するものです。やがて、地域の方たちからの賛同を得られるようになり、今では市内に5ヘクタールを栽培するようになりました。



▲浄化槽点検作業

今後は、し尿・浄化槽の汚泥や畜産糞尿、生ごみなどを再利用して電気や液肥に変えるバイオマス活用計画を進め、持続可能な資源循環型社会の実現を目指しています。そして、「この国東に生まれて良かったと思えるまちにしたい」という想いで社員一丸となって取り組んでいます。



▲浄化槽点検作業

ました。認定後に取り組み始めた保全管理の中でも、排水路の重機による泥上げや遊休農地発生防止の活動と、景観形成の一環として婦人会と連携しての美化活動、子ども会と連携した生き物調査を通じて地域の環境保全への啓発活動に力を入れました。保全管理活動を始めた頃は、不定期での活動だったため、なかなか人が集まりませんでした。そこで、毎月第2第4日曜日を全体活動日に固定したことで、参加者が増えるようになりました。遊休農地発生防止として、地域に居ない地主へ連絡を取り、地域全体で管理していることを理解してもらい、耕作を依頼される事例も増えてきて、遊休農地の減少にもつながっています。そうした活動が認められ、昨年11月17日に開催された「多面的機能支払制度」を推進するシンポジウムで、表彰を受けました。下櫛来地域環境保全組合のみなさんは、一緒に草刈りや清掃活動を行うことによつて、農業者だけではなく、地域全体で農村環境を意識するようになり、意見を交換する場所ができたと感じており、みんなで農業環境を守っていきたいと考えています。



▲婦人会による美化活動



▲子供会による田んぼの生き物調査



▲遊休農地発生防止のための保全管理

商工会編



### 有限会社 オニオントリミング

国見町櫛来  
平成10年から農産加工所を営む

創業者の松本茂さんは、長年林業を営んでいましたが、くみ農産加工所を営む

会社の社長から誘いを受けて、オントリミング工場を起ち上げました。工場で行っているのは、くみ農産加工が用意したタマネギやニンジン、ダイコン、ニンニクなどの原料を皮むき加工をして、くみ農産加工に納品する1次材料加工です。設立当初は従業員7名で行っていましたが、今では16名まで増員しています。そして、くにみ農産加工が取り扱う原材料の中で土の付いた農産物の皮むき加工作業を一



手に取り扱うようになりました。順調に業績を伸ばしてききましたが、皮むき加工が完全な受注生産のため、日々加工する量が変動し、従業員の勤務時間が不安定だったことと、3月期はたまねぎなどの皮むき加工の閑散期にあたり業務量が減るという課題がありました。そこで、従業員に農作業をしてもらい、3月期に収穫を迎える極早生タマネギを栽培することにしました。さらに、今までの経験と国内の加工用野菜が不足していることから、加工用野菜を栽培することになりました。現在では、国見町の下櫛来地区と伊美地区に計1.5ヘクタールの農地を借り、ダイコンとタマネギを栽培しています。加工用野菜は、市場に出荷するのは違い、年間を通じて値段の変動が少ないため、しっかりと栽培すれば安定した収入を確保できるようになっています。オニオントリミングは、地域に根付いた確かな品質のものづくりにこだわる会社として、地元雇用の確保に取り組んできました。今後は、地元の若手農家が生産した野菜などを利用できる仕組みを構築することに取り組んでいきます。



▲自家製のたまねぎ